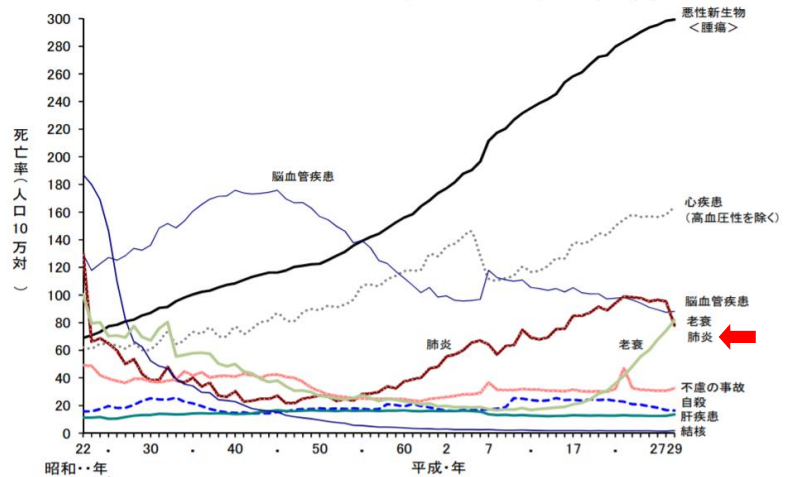


## 肺炎と肺炎球菌ワクチンについて

呼吸器科 吉川 理子

肺炎は、日本人の死因の第3～5位を占めます。  
肺炎死亡増加の背景には高齢化があり、肺炎による死亡者の年齢層をみると65歳以上の割合が95%以上を占めています。  
市中肺炎で最も多く、入院率が高く、重症化しやすく命に関わることもある原因菌として、肺炎球菌が有名です。現在、肺炎球菌に対するワクチンは2種類あり、肺炎の重症化・死亡を防ぐ目的で**65歳以上の全ての方に接種が推奨されます**。インフルエンザワクチンとの併用効果が高いと言われています。



(図: 主な死因別にみた死亡率(人口10万対)の年次推移、厚生労働省 平成29年(2017)人口動態統計月報年計(概数)の概況より)

2種類のワクチンとその特徴をご紹介します。

ニューモバックス® (23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン (PPSV23))

肺炎球菌が100種類以上あるうちの病原性が高い23種類(23価)を体に覚えさせるワクチンです。免疫の記憶をつけれないため5年以上あけて再接種が推奨されています。

プレバナー® (13価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV13))

2014年より小児のみならず成人にも適応となり、免疫記憶が得られる構造のため長い効果持続が期待されます。

どちらを打つか迷っている方は下記チャートを参考にしてください。なお、2014年に始まった肺炎球菌ワクチンの定期接種(過去に肺炎球菌ワクチンを1度も接種したことのない方が対象。ニューモバックス®を公費負担で安く接種できる)は**2019年度からは該当年度に65歳になる方のみ**となる予定です。2018年度に該当の方は、3月31日までに公費負担で接種することをお奨めいたします。

### 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方(2017年10月)

(日本感染症学会/日本呼吸器学会 合同委員会) 平成27～30年度の接種

